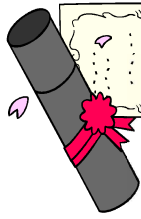




心ゆたかに

三芳町立藤久保中学校 学校だより 第14号
学校教育目標「自ら考え進んで行動する生徒」
令和6年3月15日発行(卒業式号)文責 田川 一義

令和5年度 第40回卒業証書授与



輝かしい未来を祝して!



ここ数年の卒業証書授与式は、感染症拡大防止の観点からご来賓の皆様のご臨席は叶わなかったのですが、今年、ご来賓の皆様をご招待し、記念すべき第40回卒業証書授与式を盛大に執り行うことができました。保護者様につきましても制限なく、また1、2年生の在校生も参列し、コロナ前の形で執り行うことができました。教育活動のほとんどが、コロナ前の日常を取り戻しつつあることを実感しています。ここに、卒業生の新たな門出を心よりお祝いし、以下に式辞を掲載いたします。

<校長式辞>

— 前略 —

80名の卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。今、みなさん一人一人に手渡した卒業証書には、「中学校の課程を卒業したことを証する」と記されています。義務教育9年間を終えた証です。これから先は、自分の意志と判断でそれぞれの新しい道へと歩き始めていくことを意味しています。中学校での3年間、楽しかったことはもちろん、苦しかったや悔しかったことも、かけがえのない思い出になっていることと思います。

卒業生のみなさんが藤久保中学校に入学した3年前、私も新任校長として藤久保中学校に赴任しました。みなさんは、少し大き目の制服に身をつつみ、担任の呼名に緊張しながらも元気よく返事をし、一礼する初々しい姿を、まさにこの場所から見守っていたことが昨日のこのように思い出されます。以来、3年間共に過ごし、みなさんの成長を見届け、本日、卒業証書を手渡すことができ、私自身も大変うれしく思っているところです。

1年生の頃は、多少覚束ない様子もありましたが、2年生になり、中堅学年として、生徒会活動や部活動などの中心的役割を果たす頃には、学校の顔としての自覚が芽生えつつあったように思います。

そして3年生になってからのみなさんは、最上級生として、今までの藤久保中学校のよさを受け継ぐだけでなく、みなさんならではの発想で新たな伝統を作ってくれました。その間、着実に成長してきたみなさんの姿を様々な場面で見るのが、私にとっての楽しみであり、喜びでもありました。

みなさんの母校、ここ藤久保中学校で学んだことを誇りに、新しい世界へと大きく羽ばたいてください。

思い起こせば、1年生の時にいったスキー教室、2年生の時にいった修学旅行、共に私も同行させていただき、私にとっても有意義な思い出となりました。また熱く盛り上がった体育祭。体育祭では、みなさんが全力で競技に臨み、最後まであきらめないゴールシーンや精一杯仲間を応援する姿に、力強さとたくましさを感じました。そして何と言っても、合唱祭。私も鳥肌が立つほどの歌声でした。合唱祭では、それぞれのクラスで色々なドラマがあったと思いますが、合唱祭にかける強い思いを歌に込め、立派に表現してくれました。合唱祭当日は最上級生らしいパワー溢れる素晴らしいハーモニーをホールいっぱいに響かせてくれました。また先週おこなった「3年生を送る会」では、卒業生のみなさんが「エール」を合唱してくれました。私はその歌声に引き込まれ、感動を覚えました。その歌声は聴く人の心を揺さぶり、後輩たちの良き手本となってくれました。

そのような卒業生の輝かしい未来に、二つお話をします。一つ目は近い将来、国際化、情報化、IT化が急速に発展し、今ある職業の半分が無くなるとも言われています。手順が決まっている作業はロボットが、調べればわかる知識はAIが教えてくれる時代が間違いなくやってきます。だからこそ忘れて欲しくないことがあります。それは、人だけが持つことのできる心遣いと思いやりの気持ちです。「自分さえよければそれでいい」ではなく、常に相手の立場になって物事を考えたり、協力し合うことが大切です。心遣いと思いやりの気持ちを持つことで、周りを明るくし、ひいては自分自身の心が豊かになり、幸福度が増していくものと思っています。

二つ目は「チャレンジ精神を持ち続けて欲しい」と言うことです。これから始まる新しいステージに、期待と不安で胸がいっぱいだと思います。そうした中で、夢や希望を持ち、何事にもチャレンジして行ってください。「何事もやってみなければわからない」「経験してみないとわからない」ことがたくさんあると思います。それで失敗したり、つまずいたりすることもあるかもしれませんが、辛いことや苦しいこと、思い通りにならないことに涙したり、時には立ち止まりながらも、投げ出すことなく向き合っていくことが大切です。自分を信じ、自分の可能性を広げ、未来を切り拓いていってください。

ここで藤久保中学校を巣立っていくみなさんに藤久保中学校の校歌の作詞者でもある宮沢章二さんの「出発の意味」という詩を贈ります。

「出発の意味」

だれかが 実力を試してくれるかも知れぬ
そして 点数をつけてくれるかも知れぬ
それでいい そこから未来へ出発するのだ
そこから 新しい風景が見え始めるのだ
自分の足で 一人の実力で山道を登る
一步一步 どんな天景がひらけるのか
苦しんで登ってみなければ わからない

〈進もう〉と決意するからこそ 道がある。
自分の道は 自らの努力でしか歩けない
それを 身をもって確かめるための 出発
花たちは 開く行為によって光と出合える
鳥たちは 飛ぶ行為によって風と遊べる
人もまた 意欲的に出発する行為によって
それぞれが本当の〈希望〉に出合える

最後になりますが、保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様は立派に成長しました。とても頼もしくなりました。お子様の幼き頃からの日々を思い出されますと、感慨もひとしおのことと拝察いたします。改めてお子様のこれからの大いなる飛躍をお祈り申し上げます。これから先は、変化の激しい時代になると思います。今後はどんな困難に直面しても、藤久保中学校で学んだこと、過ごしたことを胸に、力強く生き抜いてくれるものと信じております。あわせて、この3年間PTA活動をはじめ、本校の教育活動にお寄せいただきましたご理解とご協力に心より感謝を申し上げます。

結びに、本校の教育活動に深いご理解とご指導たまわりました三芳町教育委員会、並びにご来賓の皆様、地域の皆様、また本日ここにお集まりのすべての皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げ、卒業生80名の輝かしい未来を祝し、「式辞」といたします。

《表彰》「おめでとうございます！」（敬称略）

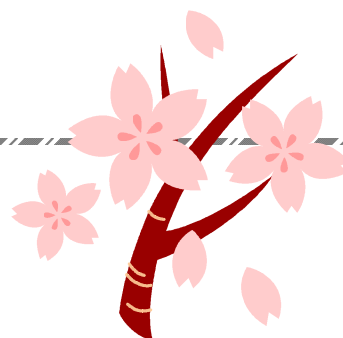
- ★埼玉県教育委員会模範生徒表彰 3-1
- ★埼玉県産業教育振興会表彰 3-1
- ★体育優良児童生徒表彰 3-1



- ★町内児童生徒美術展
入選 3-1

★3学年学校表彰

- ・学 び 賞 3-1 3-2
- ・思いやり賞 3-1 3-2
- ・健 康 賞 3-1 3-2



令和5年度卒業生進路先

国公立高等学校等(順不同)

朝霞高等学校	朝霞西高等学校	大宮高等学校	大宮東高等学校
川越高等学校	川越工業高等学校	川越女子高等学校	川越西高等学校
川越初雁高等学校	川越南高等学校	坂戸高等学校	坂戸西高等学校
志木高等学校	所沢高等学校	所沢北高等学校	新座総合技術高等学校
新座柳瀬高等学校	富士見高等学校	松山女子高等学校	和光国際高等学校
川越市立川越高等学校			

私立高等学校等(順不同)

秋草学園高等学校	浦和実業学園高等学校	叡明高等学校	霞ヶ関高等学校
埼玉平成高等学校	昭和鉄道高等学校	西武台高等学校	中央大学附属高等学校
東京農業大学第三高等学校	日本大学豊山女子高等学校	武南高等学校	豊南高等学校
星野高等学校	細田学園高等学校	武蔵越生高等学校	山村学園高等学校
わせがく夢育高等学校			

